

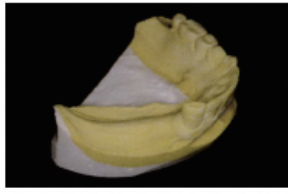
- 1 上部構造
- 材料
    - オールセラミックス
      - 1 ニケイ酸リチウム(ガラスセラミックス)
      - 2 ジルコニア
      - 3 アルミナ
    - 陶材焼き付け冠
    - レジンジャケット
    - 金属

- 2 アバットメントスクリュー
- 2.1 材料
- 1 純チタン
    - 破折の危険性高い
    - 緩みやすい
  - 2 チタン合金
- 2.2 カバースクリュー
  - 2回法の1次手術時にインプラント体に装着

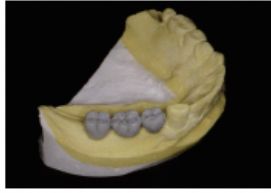
- 3 アバットメント
- 3.1 材料
- 1 純チタン
  - 2 チタン合金
  - 3 ジルコニア
- CAD/CAM



- 5 カバースクリューとヒーリングアバットメント
- どちらもインプラント体埋入後に装着するもの
- 1回法
    - ヒーリングアバットメント
    - 口腔内に露出する
  - 2回法
    - カバースクリュー
    - 口腔内に露出しない



1 研究用模型製作



2 診断用ワックスアップ

2.1 対合歯との位置関係を把握&検討する

2.2 診断用ステント製作するために必ず行う



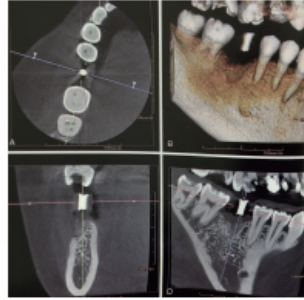
3 診断用ステント(ガイドプレート)の製作



咬合面観

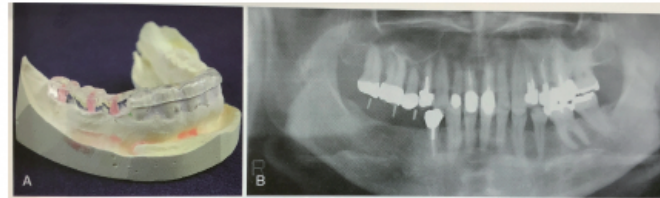
ワックスアップした模型を複印象し製作する

術前診断の手順(~ステントとは?)



CT

4 撮影



パノラマ



5 外科用ステントの製作

診断用ステントを改造して用いることが多い



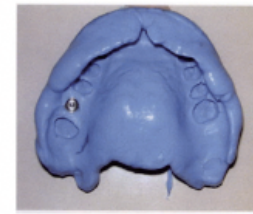
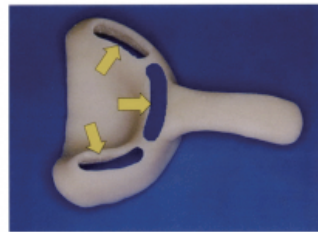
1 ヒーリングアバットメントを確認



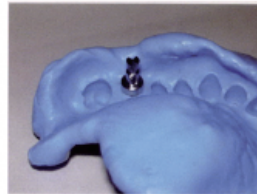
2 ヒーリングアバットメントを除去



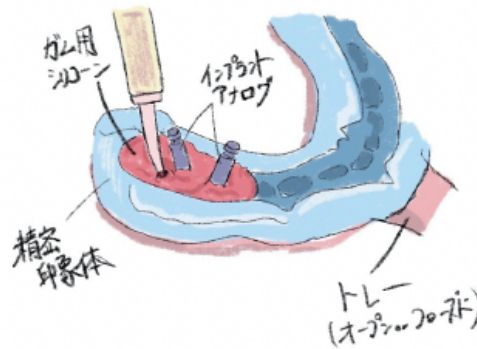
3 印象用コーピング装着



4 印象採得&撤去(印象用コーピングが取り込まれているか確認)



5 印象用コーピングにインプラントアナログを装着



6 石膏模型製作(イラストはガム模型製作時)

オープントレー ○ 手順 ○

印象方法 ○

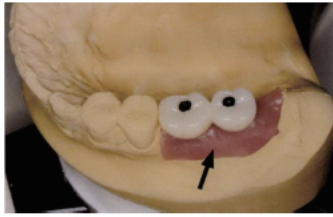
クローズドトレー

2つの比較 ○

比較 ○

	オープントレー	クローズドトレー
印象精度	非常に良い	良好
術式	難しい	簡単
開口量の制限	受ける	受けない
コーピングの大きさ	大きい	小さい
トレーの穴	有	無

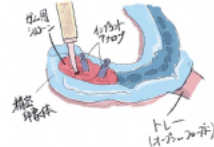




インプラント体から立ち上がる軟組織の形態(エマーゼンスプロファイル)を再現

- 目的
- 1 上部構造の歯頸部のカントアップ
  - これにより、
    - 2 清掃性の確認
    - 3 歯肉形態の適合を検討できるようになる

ガム模型について



- 製作手順
- 精密印象が終わったら、ガム用シリコンを流す
  - そのあと石膏を流す

印象のレベルとは？

概要

インプラント治療のとき

「印象のレベル」がある

- 1 インプラント体レベル
- 2 アバットメントレベル

模型にしたときの再現をどこまでするか

- 模型にインプラント体を再現したい → インプラント体レベルの印象
- 模型にアバットメントを再現したい → アバットメントレベルの印象

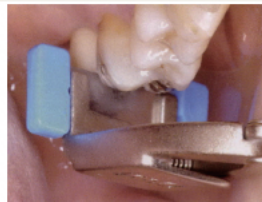
一般的には

インプラント体レベルまでの印象を行う

- アバットメントレベルの印象をするときは → 既製アバットメントを使用する症例のとき



✔ フロスが入る=OK



✖ 50µmのコンタクトゲージが入る=NG

【大きさ】50µm > フロス

フロスがOKで50µmがダメな理由

- インプラント体は、天然歯と比較して生理的動揺がない
- 50µmが入るまで調整すると食編圧入の原因となる

動揺度からの臨床思考

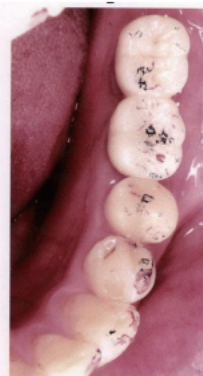
インプラントは生理的動揺がないため

側方力に弱い

そのため側方運動時の接触は除去することが望ましい

咬合調整について

過去問112 青=タッピング運動 赤=側方運動



左下6に赤い印

ここを調整する必要がある

上部構造の固定様式

比較		
	スクリュー固定	セメント式固定
口腔内写真		
技工操作	難しい	簡単
適合性度の調整	難しい	簡単
コンポーネント(インプラントの構成要素)の破壊	多い	少ない
審美性	不良	良好
修理	簡単	難しい
必要な(対合歯)クリアランス	少ない	多い
セメントの有無	無	有
メンテナンス	簡単	難しい

トロント会議(1998) 成功基準

- 1 インプラント体による上部構造の支持に患者と歯科医師の両方が満足している
- 2 インプラントに痛み不快感、知覚の変化、感染の兆候がない
- 3 臨床的に診査するとき、個々の連結されていないインプラントは動揺がない
- 4 機能開始1年以降の経年的なインプラント周囲の垂直的吸収は0.2mm以下である

メンテナンス



オステオインテグレーション獲得の時期

- 上顎: 埋入から6ヶ月
- 下顎: 埋入から3ヶ月

インプラントオーバーデンチャーの適応判断基準

- 適応
- 無歯顎症例
  - 多数歯欠損
  - 3歯は